

自主防災組織活動報告 戸倉地区防災・安心地域委員会 ～土砂災害を意識した防災活動～

1. 地形上の特徴

五日市方面から戸倉地区への入口は、沢戸橋か西秋川橋からです。
この秋川河川敷の標高はおよそ 200 メートルで、これより 10 から 30 メートルの高台に宅地や農地があり、そこから一挙に標高 434 メートルの城山になります。
すなわち、戸倉の居住地は、川沿いと山沿いの急傾斜に挟まれているため、豪雨時に災害が起りやすい地形となっております。

2. 土砂災害を意識した活動の実績

① 平成 23 年度市総合防災訓練の日、戸倉東部と戸倉西部の会長・副会長・会計・組長と地域委員会が会館に集まり、例年と趣を変えて「豪雨での避難」を想定し、担当地区から避難場所までの危険予測・要援護者の避難等についての机上訓練を実施しました。

② 平成 25 年度において、筑波大学の研究に協力し、「土砂災害から身を守るには避難が重要であることを啓蒙するアンケート」に戸倉地区の全戸が参加しました。自治会のルートを活用し、アンケートを回収したことにより高い回収率が得られ、土砂災害に対しての意識の向上が図られました。

③ 下草が枯れ、見通しの良い本年 2 月 7 日に、地域委員会とコミュニティ応援隊の 13 名が参加し、5 時間かけて居住地付近の危険箇所を实地踏査しました。多種多様な危険箇所を確認し、委員間の共通認識を持つことに有効でありました。今後、継続実施による意識の向上と、防災の実践に結びつくことを期待しています。



以上、戸倉地区における豪雨・土砂災害に関する取組実績を紹介させていただきました。

文責 小峰 秀夫

TOPIC 防災・安心地域委員会活動発表会



平成 27 年 7 月 4 日、秋川ふれあいセンターふれあいホールにて防災・安心地域委員会活動発表会が行われ、合計 8 つの組織（本部と 7 地区の防災・安心地域委員会）が発足から現在までの活動を発表しました。

当日は、防災・安心地域委員会委員や防災リーダー等の 100 名以上が参加しました。倉田本部長の挨拶の後、各地区の代表者が地域の特性、組織体制、地域での活動や今後の課題等を発表しました。同じ市内でも地域の特性にあった活動を行っているという点を改めて感じる事ができました。また、当初の目的どおり、各地区の活動を知る良い機会となり、今後のそれぞれの地区の活動の参考になりました。

今後もこのような事業を行い、「自助・共助」の向上を推進していきます。



sonae防災

あきる野市防災・安心地域委員会

平成 27 年 9 月 30 日
(第 6 号)
発行責任者
防災・安心地域委員会
本部長 倉田克治

家具転対策はお済みですか

今回は、東京消防庁秋川消防署の熊崎署長にコメントをいただきましたのでご紹介します。

「マグニチュード 8.1」この数値の地震はいつ起きた地震でしょうか？

今年、5 月 30 日 20 時 24 分頃に発生した小笠原諸島西方沖を震源とする巨大地震です。気象庁観測史上初、日本全土で震度 1 以上の揺れを観測しました。

最近では鹿児島県口永良部島新岳や浅間山の噴火、箱根山・大涌谷など日本各地で火山活動が活発になり、普段平穏に暮らしている私たちの日常に不安を抱き始めている方も多いのではないのでしょうか。

昨年、政府の地震調査委員会は関東地方に震度 6 以上の地震が発生する確率について、今後 30 年以内に 70% と発表しました。一方あきる野市地域防災計画に目を向けると、立川断層帯地震の発生で、市内のおよそ半分で震度 6 強、一部の地域では震度 7 の揺れが発生すると想定されており、まさに今、「自助」・「共助」・「公助」の高まりが求められています。

このような中、6 月に防災・安心地域委員会の主催で開催された「第 5 回あきる野市防災コンクール」に出動された皆様の地震発生時から救助活動終了までのレベルの高い技術とチームワークを拝見させていただき、「自助・共助」の象徴と言える防災行動力に心強く感じたところでもあります。

秋川消防署でも署員一丸となり、震災対策を軸とした総合的な防火防災対策を強力に推進しています。そして、市民の皆様の安全・安心に向けた様々な施策を展開しております。

その一つに、皆様が身近に取り組める手軽で効果的な震災対策として、家具類の転倒・落下・移動防止対策（以下、「家具転対策」）があります。

近年発生した福島県西方沖地震や新潟県中越沖地震などでは、ケガをされた方の 5 割が「家具類の転倒や落下」による負傷だということを踏まえると、「家具転対策」は大規模地震発生時に皆様の身の安全を高めると同時に、その後の行動に大きく影響を与える重要なそなえの一つではないのでしょうか。

消防署では、町内会・自治会の防災訓練をはじめ、署員がご家庭を訪問し住宅防火についてお話をさせていただく防火診断、また市内各イベントや園児、児童、中高校生の防災教育などの機会を捉えて「家具転対策」の重要性と固定等の方法を学んでいただけるよう取り組んでおります。

これからも消防署は、防災・安心地域委員会を中心とした町内会・自治会、消防団員をはじめとした関係機関の方々と、より一層連携し震災対策を推進してまいりますので、市民の皆様におかれましては、引き続き防災行動力向上に向けた積極的な取り組みをお願いいたします。



東京消防庁秋川消防署
熊崎 均 署長

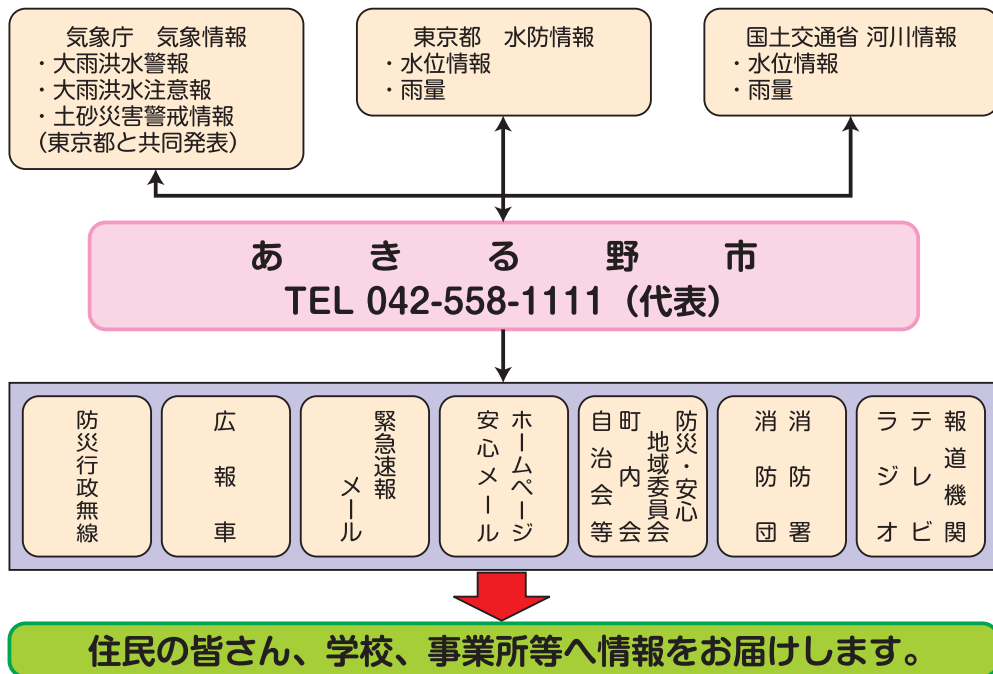


本号の保存資料について

■自然災害に備えて
知っておきたい防災知識②

自然災害に備えて知っておきたい防災知識②

A. 避難情報の伝達方法



B. 避難情報が出たときは…

- ・お互いに助け合って、避難場所へ安全な経路で速やかに避難を始めましょう。
- ・お年寄りや子ども、障がいのある方などは、早めの避難が必要です。近隣の方は、そのような方の避難にご協力をお願いします。
- ・緊急車両の通行の妨げになるため、自動車での避難はやめましょう。
- ・浸水している場所では、水路や側溝、マンホールに十分に注意しましょう。
- ・逃げ遅れたときや避難場所まで行くことが困難な場合には、近くの建物の2階以上で山からできるだけ離れた部屋に逃げましょう。
- ・テレビ、ラジオ、防災無線、インターネットなどの気象情報、水防情報には十分注意しましょう。



C. 避難時の心得

● 正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の状況や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



● 避難の呼びかけに注意

危険がせまったときには、市役所、警察署、消防署、消防団から、防災行政無線や広報車などにより、避難の呼びかけを行います。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



● 避難行動要支援者の避難にご協力を

高齢者・障がい者・病气やけがをしている方は早めの避難が必要です。隣近所の避難行動要支援者の避難にご協力ください。



● 車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別の場合を除きやめましょう。



● 動きやすい格好、二人以上での避難

避難するときは、自主防災組織内で声をかけ合って避難しましょう。また、水面下では道路や側溝などの境目がわかりにくいため、杖などで安全を確認しながら歩きましょう。



● 危険箇所を調べておこう

日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。外出する際には、がけ地に近づかないようにしましょう。



D. 災害用伝言ダイヤル、災害用伝言板

・NTT 災害用伝言ダイヤル

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音・再生をしてください。

メッセージの録音：171→1→市外局番から電話番号→メッセージの録音

メッセージを聞く：171→2→市外局番から電話番号→メッセージの再生

・NTT 災害用ブロードバンド伝言板 (web171)

災害発生時にインターネットで伝言情報の登録、閲覧ができます。

ホームページ <https://www.web171.jp/>



この他、携帯電話・PHS各社で災害用伝言板サービスもあります。利用方法は、各社ホームページ等でご確認ください。